静岡県精神保健福祉協会
News Letter -No.30-

巻頭言

静岡県精神保健福祉協会　常務理事
平岡　篤武（静岡県公認心理師協会 会長）

常務理事就任にあたって

この度、私共静岡県公認心理師協会を本協会常務理事として迎えていただきまして、誠にありがとうございます。

静岡県公認心理師協会は、昭和58年の静岡県心理臨床懇話会発足から始まりました。その後、平成４年に静岡県臨床心理士会を立ち上げ（当時の会員数53人）、公認心理師国家資格が認定された直後の平成31年４月からは、静岡県公認心理師協会に名称を変更し、公認心理師と臨床心理士を正会員とする団体となっています（2022年11月30日現在の会員数726人）。

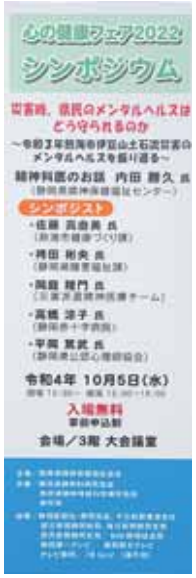
公認心理師法に示された公認心理師の業務は、アセスメント、面接技法、関係者への支援、心の健康に関する教育・情報提供の４領域になります。

私たちはこれらに加え、これまで県下で活動継続してきた心理職能団体としての強みを、地域社会に還元していくことが求められていることを強く意識して、日々活動しているところです。

その活動の一つとして、令和３年７月３日に発生した熱海市伊豆山における土石流災害へのこころのケア支援が挙げられます。本当に痛ましい災害でしたが、現場では会員であるスクールカウンセラーが中心となって学校への支援に当たったり、県からの協力依頼に基づいて会員の派遣を行ったりして対応することができました。また本年度は、県内で発生した事案へのこころのケア支援を行っています。

私たちの現在の課題は、研修体制の充実や協会を運営するマンパワーの確保とともに法人化があり、来年度を目指しその作業を進めているところです。

今後ともよろしくお願い致します。



心の健康フェア2022
シンポジウム

「災害時、県民のメンタルヘルスはどう守られるのか」

～令和３年熱海市伊豆山土石流災害のメンタルヘルスを振り返る～

静岡県精神保健福祉協会は、県民の皆様の精神疾患や精神障害についての正しい知識・理解を深める機会になり、誰もが生き生きと生活できる地域づくりの一助となるようにと、毎年「心の健康フェア講演会」を開催してきました。今年度は、令和３年度に発生した熱海市伊豆山土石流災害において、県内の精神保健福祉に関わる各団体が、どのような活動をして被災者のメンタルヘルスを支援したのかについてお話していただき、県民の皆様に災害時にどのような支援を受けられるのかをお知らせする機会になることを願って、シンポジウムを開催しました。

また新型コロナウイルス感染拡大防止のためハートフルアート作品展は中止し、昨年、一昨年と2年連続して発行した「ハートフルアート展作品集」も、今年度は休止しました。

令和５年度には、「ハートフルアート展作品集」の発行を再開する予定ですので、令和４、５年度の作品を併せて御準備をお願いします。

講話
・内田　勝久　氏（静岡県精神保健福祉センター所長、精神科医）
シンポジスト
・佐藤　真由美　氏（熱海市健康づくり課　保健師）
・袴田　彬央　氏（静岡県障害福祉課　精神保健福祉班）
・岡庭　隆門　氏（災害派遣精神医療チーム静岡DPAT）
・高橋　涼子　氏（静岡赤十字病院　看護師長）
・平岡　篤武　氏（静岡県公認心理師協会長）
コーディネーター
・藤田　登志美　氏（静岡県精神保健福祉センター）

令和４年10月５日（水）　13：00～15：00
静岡市民文化会館　３階　大会議室
参加者　60名

心の健康フェア2022シンポジウム「災害時、県民のメンタルヘルスはどう守られるのか～令和３年熱海市伊豆山土石流災害のメンタルヘルスを振り返る～」が、10月５日に静岡市民文化会館で開催されました。

当協会副会長の静岡県精神保健福祉センター内田勝久所長の「災害事故直後に必要なことは、安全が確保され、安心を取り戻すことであり、そのことがメンタルヘルスを保つことになる」という講話から引き続き、各支援者の報告に移りました。

熱海市健康づくり課の保健師佐藤真由美氏から、避難所での相談や訪問活動で、受診の促しや、傾聴、通いの場の紹介をし、伊豆山ささえ逢いセンターの活動へと支援展開した事や安否確認を地域の相談機関と連携して行ったことが報告されました。

続いて、災害派遣精神科医療チーム（DPAT）の岡庭隆門氏より、DMAT（身体科災害医療チーム）や日赤こころのケア班と連携し、緊急のメンタルヘルスケアニーズ事例へ対応、また遺体発見者となった消防や警察隊員への相談先記載の啓発パンフレットを配布、遺体・遺品洗浄を行っていた熱海市役所職員に対し、DMORT（災害死亡者家族支援チーム）と連携して対応するなど、職員側の支援もなされたことが報告されました。

次に、静岡赤十字病院のこころのケア班の高橋涼子氏からは、支持（そばにいてあげる）、傾聴（親身になって聞く）、共感（被災者の感情を受けとめる）、具体的支援（血圧測定、ホットタオル、足浴、ハンドマッサージ、レクリエーション等）を行い、必要時には、保健師、往診医、DPATに繋げたことが報告されました。

最後に、静岡県公認心理師協会会長の平岡篤武氏からは、緊急支援活動におけるサイコロジカル・ファーストエイド（心理的応急措置）を行ったこと、混乱している現地が本来の支援活動を始められるように支援することを目的として介入したことが報告されました。

シンポジストから来場者へのメッセージとして、「被災者となった際には、支援者に安心して頼って頂きたい、SOSを出してもらいたい、そして地域の人と顔の見える関係を築いておいてほしい」というお話がありました。

興味深いお話に耳を傾け固くなった体をほぐしていただくように、精神保健福祉センター末永保健師主導で、参加者の皆様全員でリラクゼーション体操を行い、心の健康フェア2022は終了しました。

参加者の方々の感想から

- 災害被災者のメンタルヘルスを、各方面からたくさんの方が連携しながら支えていることを知ったが、目に見えない被災者の気持ちを理解するのは難しいだろうと思った。
- 人とのつながりが、心と体の健康を保つことにつながっていると思った。
- 災害や事故等心配な事が多いが、みなさんの活動で私達が安心して生活が送れます。
- 心に寄り添い、連携して、見通しがもてるようになるまでケアされていることがよくわかった。
- 自分たちが被災する立場（台風15号）になり、初めて精神的ケアが重要ということを感じた。つながることで精神的ケアを進められるように地域に伝えていきたいと思う。
- それぞれの機関団体との連携が大切であることを感じた。地域が自立できるよう必要な支援を見極め、支援者はサポート役に徹することが必要だと学んだ。
- 誰もが被災者になることがある。地域コミュニティの大切さを感じた。
- 重度のアレルギーがあるわが子は、災害時にはストレスが増大するだろうと心配していたが、各団体の方々が献身的に活動されることを知り、心強く思った。
- 支援にあたられる方々のストレスはこれまで考えなかったが、混乱の中ありがたいことだと思った。
- このような機会がなければ知らなかった話が聞けて、有意義だった。

こころの健康づくり講演会の御紹介

精神保健福祉協会では、地域精神保健福祉思想の普及及びその啓発を図り、県民の精神保健福祉の向上に資するため適当と認めた団体に対し、こころの健康づくり講演会開催の支援を行っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止に配慮して、年度後半に予定された講演会が多くありました。既に開催された講演会と１月以降に予定されている講演会を御紹介します。

●うつ病を知ろう～ストレスとうつ病～

講師　静岡大学教育学部教授・精神科医　鈴江　毅 氏
◆令和４年９月18日（日）菊川市役所東館 プラザきくる
主催者：菊川市健康づくり課
＜講演会の内容＞
・メンタルヘルスって何？
・うつ病をやっつけろ！～うつ病の予防～
・ストレスがやってきた！「ストレス理論」
〈感想等〉
「ストレスとうつ病の関係性が理解でき、ストレスを防ぐ方法もわかった」「自分には関係ないと思っていたが、話を聞きうつ病は身近な病気だと思った」「対処方法を知って、有意義だった」など、うつ病に対する理解が深まったという感想が多く聞かれた。

●地域共生社会実現のための一歩　～精神障害の理解～

講師　医療法人社団リラ 溝口病院 病院長 寺田 修 氏
◆令和４年10月４日（火）
静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
主催者：社会福祉法人 明光會
＜講演会の内容＞
精神障害に対する基礎知識（特性や接し方など）や障害をお持ちの方が地域で孤立しないためにどのように関わっていけばよいかを、医師の立場からお話していただいた。また困ったときの支援機関、地域から病院に寄せられる相談などについてのお話もあり、精神障害の方が地域で「普通の暮らし」ができるためにどのようなことが必要か、出席者の皆さんと一緒に考えることができた。
〈感想等〉
分かりやすい資料と講演で精神障害の理解が深まった、支援の振り返りができた、などの感想が多かった。また医療の立場からのお話を聞く機会が少ないこともあり、定期的な講演会開催を希望する意見もあった。

●精神障害者が地域で暮らしていくために
～「本人の思い」「医療と福祉の支え」を聴く

講師　藤枝駿府病院 ソーシャルワーカー 栗原 幹生 氏
藤枝駿府病院 看護師長 加藤 暁子 氏
もくせいの家相談支援専門員 松代 英子 氏、前田 優 氏
ピアサポーター 深井 周 氏

◆令和４年12月16日（金）藤枝市生涯学習センター
主催者：藤枝市役所障害福祉課
＜講演会の内容＞
①精神医療機関による訪問看護と地域移行について　②相談支援事業所による支援について
③当事者による地域での暮らしについて
〈感想等〉
受講者からは、「実例を交えた講座でよく理解できた」「誰もが生きやすい世の中を皆で考えて作っていくことが大切だと思った」等、地域の精神障害者を理解していきたいという多くの感想が寄せられた。
新型コロナの影響もあり、参加者が28名に留まったが、今後の講演会をより周知するために広報活動等に工夫が必要だと感じた。

１・２・３月に開催予定の講演会の御案内

開催日	会場	テーマ・講師	主催団体
令和５年 １月18日(水) 13：30～15：00	佐倉地区センター さくらんぼホール	地域活動支援センター御前崎相談事業所 所長　八木　光春　氏 **障がいがあってもなくても地域で自分らしく生きるとは**	社会福祉法人 Mネット東遠 **TEL 0537-86-7576**
令和５年 １月31日(火) 10：00～12：00	三島市立 保健センター	**呼吸法とマインドフルネス** 講師：臨床心理士・公認心理士 社会学博士　鈴木 文月 氏	三島市保健委員会 **TEL 055-973-3700**
令和５年 ２月22日(水) 13：30～15：30	工房オアシス ２階会議室	**精神障害を抱えられた方々を支援する中で私が感じたこと** **～私の経験から今思い、伝えたいこと～** 講師：社会福祉法人Mネット東遠 掛川地区統括　戸塚 恵理子 氏	掛川小笠地区精神保健福祉会ひまわり会 **TEL 0537-29-8970**
令和５年 ３月９日(金) 18：00～20：00	焼津市役所 １Ｂ会議室	**コロナ禍の子どものSOSにどう気づき対応するか** 特定非営利活動法人 OVA代表　伊藤 次郎　氏	焼津市地域福祉課 **TEL 054-631-5532**
令和５年 ３月予定	小笠中央公民館 多目的ホール	**映画上映「ふたり～あなたという光」** **（きょうだい映画）**	菊川市精神保健福祉ボランティア あしたばの会 **TEL 0537-28-9716**

※新型コロナウイルス感染状況によっては、延期または中止になる場合もあります。
詳細は各主催団体へお問合せください。

厚生労働大臣表彰

むつみ作業所　松本　久美子　氏

令和４年度精神保健福祉事業功労者の厚生労働大臣表彰は、むつみ作業所サービス管理責任者である松本 久美子 氏が受賞されました。

松本氏は献立考案、食材調達、調理までの夕食提供を続け、独居通所者の健康維持、生活能力習得のため尽力されたことや、作業所で製作する製品の販売先や古紙回収事業の回収先を増やし、精神障害者の社会復帰及び社会参加を進めたことなどの長きにわたる功績が認められました。

おめでとうございます。

なお、今年度も新型コロナウイルス感染防止のため、精神保健福祉全国大会での表彰が開催県の山口県内受賞者に限られたことから、表彰状は令和４年11月11日（金）御殿場市むつみ作業所にて、静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課精神保健福祉班室長 大石 晴康 氏から伝達されました。

松本氏の受賞を喜ぶ
むつみ作業所職員の皆様

令和５年度の日程

☆新型コロナウイルスの感染状況によって、
予定が変わる場合があります。

○第62回理事会・総会・講演会・表彰
令和５年６月１４日（水）
静岡県男女共同参画センターあざれあ
記念講演会：岩波　明　氏
（昭和大学医学部精神医学講座教授/昭和大学付属烏山病院院長）
テーマ：思春期から成人期のメンタルヘルス（仮）

○心の健康フェア　2023
令和５年11月29日（水）
静岡県男女共同参画センターあざれあ
講演会
第44回ハートフルアート展作品集発行

○ニュースレター
令和５年９月中旬、令和６年２月中旬発行

○こころの健康づくり講演会
開催申し込み期限　令和５年４月５日（水）必着
各講演会の開催予定は、令和５年度の当協会ホームページ、ニュースレターにて御案内します。

静岡県精神保健福祉協会
〒422－8031
静岡市駿河区有明町２－20
静岡県静岡総合庁舎別館４階
TEL&FAX　054-202-1220
E-mail sizuoka_seisin@yahoo.co.jp
事務局出勤日（月・水・金　９時～16時）

【当協会の活動に御賛同いただいている　会員企業様】　（敬称略・順不同）
・静岡銀行　・浜松いわた信用金庫　・㈲サカエ印刷　・㈱日本軽金属蒲原製造所

ホームページは
こちらから▶